Vol.2016-NL-226 No.13
Vol.2016-SLP-111 No.13
2016/5/17

【招待講演】

大規模コーパスに基づく言語分析
～日本語二重目的語構文の基本語順の分析を例に～

笹野 遼平

東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所

概要：
言語学の分野において、何らかの言語現象の分析が行われる際、実例に基づく容認性を根拠とし議論が展開される場合は多い。しかしながら、用いられる用例の規模は数個から数百個程度であることが一般的であり、語の組み合わせが重要となる場合など、非常に多くの用例を考慮することが必要な現象の論証には不十分である場合も多いと考えられる。一方、自然言語処理の分野では、統計情報を獲得するために、百億文を越える規模のコーパスを使用することも一般的となってきており、このような規模のコーパスを言語現象の分析に用いることで、従来のアプローチでは難しかった、現象の一般的・網羅的な分析が可能となる場合があると考えられる。本講演では、日本語二重目的語構文の基本語順の分析を例に、大規模コーパスに基づく言語分析の試みを紹介する。

ⓒ 2016 Information Processing Society of Japan